

# 富士市SDGsの課題と取り組み



12 つくる責任  
つかう責任



目標 12

持続可能な消費と  
生産のパターンを確保する

## 富士市の課題

まだ食べられるのに捨てられてしまった食品のことを「食品ロス」といいます。食品ロスは、日本全体で年間約522万トンも発生していると考えられていて、これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた食料支援の量(約420万トン)の約1.2倍に当たる食品を日本だけで捨てている計算になります(2020年推計)。食品ロスは、家庭から出されるもの(家庭系食品ロス)と会社から出されるもの(事業系食品ロス)の2つに分かれ、このうち、家庭系食品ロスは、さらに「食べ残し」「過剰除去」「直接廃棄」の3つに分かれます。1つ目の「食べ残し」は、食事の時に食べ切れずに残ってしまった食品のことを言います。2つ目の「過剰除去」は、野菜の皮の厚みきなど、食べられる部分も余分にむいて捨ててしまう食品のことを言います。3つ目の「直接廃棄」は、賞味期限切等を理由に、手付かずのまま捨ててしまう食品のことを言います。富士市でも、家庭から出される燃えるごみの中に、たくさんの食品ロスが入られています。右の写真は、富士市の燃えるごみの中に実際に入っていた手付かずの食品(直接廃棄)です。富士市では、このような食品が、年間約1,028トンも捨てられていると考えられています。



富士市の燃えるごみの中に入っていた食品ロス(直接廃棄)

## 富士市の取り組み

富士市では、町内会(区)、事業者、学校、団体等と協力し、食品ロスをなくすために、いろいろな取り組みを行っています。食材やエネルギーを無駄にしない調理法を実践をとおして学ぶエコ・クッキング講座(対象者はPTA家庭教育委員と食育推進校)や、冷蔵庫のかしこい使い方や食材の保蔵方法等を寸劇等とおして学ぶ食品廃棄物削減講座(対象者は一般市民)などの各種講座を実施しているほか、小学生と中学生を対象とした食品ロス削減ポスター展も実施しています。小学生低学年を対象とした「のこさず食べよう」ポスターは、家庭系食品ロスのうち「食べ残し」、小学生高学年を対象とした「エコなクッキング」は「過剰除去」、中学生を対象とした「手前からとってね」ポスターは「直接廃棄」をテーマにした内容となっています。各部門で最優秀賞を受賞した作品は、ふじさんエコトピア南側調整池の壁に拡大ラッピングし、来場者にご覧いただいています(ウォールアートプロジェクト)。また、ポスター展最優秀賞作品は、啓発ポスターやポップにも使用しており、町内会(区)、飲食店、スーパー、コンビニなどに配布、市内各所で掲示しています。



ウォールアートプロジェクト(ふじさんエコトピア)

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中



株式会社杉山・栗原環境事務所 取締役

杉山 涼子

現在は、環境・廃棄物コンサルタントの仕事をしていますが、2007年から10年間常葉大学富士キャンパス社会環境学部の教員として富士市の皆様に大変お世話になりました。富士市廃棄物減量化等推進審議会委員として、地球規模で環境を捉えながら富士市らしさを生かした取り組みが進められるよう微力ながらお役に立ちたいと思っています。



富士山とともに 輝く未来を拓くまち  
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS